あおい通信 第173号

第173号 令和元年10月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

新日本八景 「別府温泉」

新日本八景めぐり

大分県・別府温泉

選者：高浜虚子

別府温泉は別府市（旧国豊後国速見郡）の市内各地に数百ある温泉の総称。別府八湯、別府温泉郷とも呼ばれる。温泉都市として知られる別府は、源泉数、湧出量ともに日本一。

別府温泉はまた、広義の別府八湯①別府温泉・②浜脇温泉・③観海寺（かんかいじ）温泉・④堀田温泉・⑤明礬（みょうばん）温泉・⑥鉄輪（かんなわ）温泉・⑦柴石（しばせき）温泉・⑧亀川温泉。を構成する温泉のうちの別府市中心部にある温泉街の名称でもある。

昭和13年築の竹瓦温泉

JR別府駅周辺に位置する温泉街で、駅に近く交通の便がよい。単純泉、食塩泉、重曹泉、重炭酸土類泉など多数の温泉が湧き、各泉質に応じて効能がある。地元住民を対象とした町内会経営の共同温泉も多く、観光客も利用できる。温泉街は別府八湯の中では最も歓楽的な要素が強く、夜になれば飲食店や別府タワーなど繁華街のネオンが煌く。

元寇（げんこう）の役の戦傷者が保養に来たという楠温泉など、古くから流川の川沿いにいくつもの温泉が湧き出し、江戸時代期の温泉番付にも登場する。

昔の別府の玄関口旧別府港（楠港）の開港とともに発展した温泉街で、旧港の近くには入母屋破風の外観を持つ市営温泉「竹瓦（たけかわら）温泉」があり、温泉のほかに砂湯（温泉で温められた砂を体にかけてもらう）が楽しめる。竹瓦温泉と竹瓦小路木造アーケードは、「別府温泉関連遺産」として、平成21年2月6日に近代化産業遺産に認定されている。鎮守神である温泉神社は現在は八幡朝見神社に合祀されており、楠港の開港時にまつられた波止場神社は竹瓦温泉の北にある。

談話室

私の母校の校友会は年に一度、講演会やエンタテイニングで母校関係者や各界の色々な方をお招きし、話を聞いたり音楽を楽しむ夕べを催す。十年余り前まで参加していたが約半世紀の間に（敬称略）團伊玖磨、佐藤寛子（佐藤栄作元首相夫人）、森村誠一、江川英子。柳沢真一、ペギー・葉山、マイク・真木、かまやつひろし、谷口安正等々の校友や講師から学べて幸せだった。

そんな豪華な顔ぶれの中、今から三十年近く前の或る年、全く無名の若い講師が登場した。校友の友人で、ウエザーニュース社を創立したばかりの石橋博良社長だった。「えー、天気が商売になるの？」が最初の疑問だったが、お話は面白かった。

気象庁の天気予報は広範囲のものなので、事業主の中にはその土地に即したもっと詳細で正確な情報を要望する向きがあり、例えばウエザー社の地元の千葉ロッテマリーンズ球場は試合ができるかが大問題。早い時間に天候が知りたい。勘と経験で判断していた漁業の出漁や農家の作付・収穫に科学的判断が欲しい。スーパーは寒い日のおでん種や湯豆腐、暑い日の冷奴等の仕入が予測できる等々。

ウエザー社は、社員に気象庁のベテランOBが多く、予報がよく当るので需要が急速に増加しているという話だった。石橋社長は既に鬼籍の人だが、ウエザー社は今や日本全国に拠点を持つ日本一の気象会社になった。

今年「今迄に経験したことの無い」という言葉を何度聞いただろうか？我々の作り出した温暖化は異常気象という形で我々に仕返ししてくる。台風15号は千葉周辺に甚大な被害をもたらした。電気などによる快適な生活と温暖化解消という問題にどう折り合いをつけていけば良いのか。

やぶにらみ

東西南北

増税前、意外な駆け込み

10月の消費税増税が近づいてきた。過去の増税時は住宅や新車などで駆け込み重要がみられたが、今回は駆け込みの動きが鈍いとされる。そんな中、意外な物が増税前に売れている。その一つが成人式に着る振り袖だ。大手百貨店、高島屋の各店では、例年11月に始める振り袖の新作売り場展開を、今年は8月に始めた。数十万以上の買い物で、吟味して良いもの選びたい客も多いため、商戦は年々早まっていたというが、増税も意識して展開を3か月前倒しした。

客の反応は上々で、高島屋全体の振り袖の8月の売り上げは前年に比べて7割増になったという。

オートバックスセブンでは、冬タイヤが売れている。増税に加えて、メーカーの出荷価格の2～3％値上げものあり、10月にはダブルパンチでタイヤが値上がりする。値上げの告知とともに、冬用タイヤの販売を早め、7月ごろに全国の店舗で売り始めた。8月の売り上げは、北陸では前年の4倍、東北では1・2倍だという。仏壇も売れている。大手の「はせがわ」は例年、秋の彼岸で買い替え需要が高まる9月はじめにセールを展開していたが、今年は1週間早め8月下旬に行った。1週間の売り上げは前年同時期に比べて2割増。平均単価は仏壇と付属品を合わせて30万ほどという。ビックカメラでは20万円台前半の有機ELテレビの8月売り上げが前半同月の2倍に。ドラム式洗濯機は約1・5倍、冷蔵庫も1・4倍、の売れ行きという。「20万を超える商品が特に売れている。直前になれば、お酒などまとめ買いする動きが特に強まるのでは」

こんな事が9月7日の新聞に載っていた。

K・ドラゴン

葵友の会 広報コーナー

9月の報告

20日（金）カラオケ。「バンバン」にて。10名の参加。

10月の予定

18日（金）カラオケ。

カラオケは新しい参加者も増えました。興味のある方はぜひお待ちしています。

日帰りバス旅行も企画中です。

（事務局）

◆編集委員会より
「あおい通信」は皆様からの原稿を募集しています。 係員・飯島

利用者さんの紹介コーナー

西尾　弘子（月、水、金）

中学、高校とコーラス部に入っていました。社内恋愛で結婚し、大泉にきました。葵に週三回きて、生活のリズムができました。葵では何か楽しいことがあるのでは、とわくわくしながら過ごしています。

無題

笠井典子

令和元年九月十二日で二年の通所記念日になります。年月は光陰矢の如しでした。最近知人友人から聞かれますこと「何が良くて、デイサービスとかにいくの」わたくしは「たのしいからよ」どんなことがと云われてパソコンとかランチが楽しみなのよと答えます。わたくしを知る古い友人は、何で、家で腰をすえ、物作り等しないのかと、思って下さるのですが、毎朝の様に、指が固まっていて、その解消に、小物を少し折紙で折り、六、七個折り上げたころから、しっかり指が動きはじめます。不出来ながら、作品として同種のものが二週間もすると、百個近くたまります。幼稚園や、菩提寺に差し上げたりしています。やりたい、おぼえたいと云って下さる方も小物ですぐ出来るし、可愛い作品作りに喜んで下さるので、折り方も、忘れる事なく延々と続いています。

葵さんの、行事予定で、いろいろ楽しみな事が一杯です。献立表を見てランチも、ことの他楽しみにお待ちしてます。レクリエイション予定表にない数々のゲームや、卓球、オセロの対戦等も楽しい時となります。何をするにも、職員方の優しさと、御努力があって、皆を楽しませたいとの思いが、伝わって参ります。ころばないよう、ケガさせないよう、いつも一緒に、にこにこ行動して下さいますのには、毎回頭の下がる思いでございます。二年という年月の重さの中、私が希望してた光がやっと見えて来ました、休む暇もなく働き、走りまわるスタッフさんを横目に、お帰りの車待ちの時間です。名札をはずすと、お名前はわからなくなるのですが、パソコンの指使いの新しい授業に疲れて、一人ボーッとしていた所に、「お話しましょう」とお声かけて下さり「アッ！これ、この言葉素敵」と思い、元気が出ました。

お顔はよく存じているし、とても嬉しく思いました。カットした折紙を取り出し、違種類のようじ入れを折りつつ、お話しました。とても楽しい時間が静かに流れ、やがて二号車への名前を呼ばれ、さようなら、又ね、暖かな時間が過ぎ去り、感激のあまりウキウキとなった嬉しい一日となりました。

折り紙の楊枝入れ

萌（もえ）さん

図斉しげ子

戦時中の昭和十八年四月、私は女学校一年生になりました。しかし世情は厳しく食料も衣類も配給制、戦況も不安な状況でした。でも学校は楽しく、英語の教科がなくなり、古文が入って来ました。お友達も出来て、なかでも本好きの私は、神田神保町の古本屋さんの娘さんの萌子さんと仲良くなり、お店に誘われました。

五月の土曜日、急いで家に帰り食事をして、着替えをしていると、母が「初めてのお家に行くから」と乏しい食料の中から蒸パンを作ってくれました。それを持って市電に乗り神保町に行き、古書街を真直ぐ行くと、萌さんが待っていてくれました。お店の奥に入って行くとお父様がニコニコしながら「いらっしゃい」と迎えて下さいました。蒸しパンをお渡しして「お邪魔します」と言って萌さんの後について階段を登りました。階段は暗くて両脇に本が山積みにされていて、人一人歩くのがやっとでした。二階は赤茶けた畳の六畳間が二つ続いた何もない部屋に、座布団が二枚置いてありました。

その頃私達は、吉屋信子や中原淳一は卒業、寺田寅彦や菊池寛など読んでいました。萌さんが寅彦の全集を持って来てくれ、自分は内田百聞（ひゃくけん）を抱えてました。

二人で読んでいると、お父様が裏の喫茶店からコーヒーを取り寄せ下さり、そこには私が持参した蒸しパンが二つきれいに切って並べてありました。コーヒーは黒豆を焙煎した代用コーヒーでしたが、それ程不味くはありませんでした。夕方暗くなるまで二人は夢中で読んでいました。

つづく

英会話教室と私

菅原峯雄

私が葵さんから頂いた背番号は「H二九年五月一六日より通所」で、昭和八年九月三十日生まれの八十五才です。

通い始めの頃、良く送迎車で御一緒だった故・島田暎一さんに優しく声をかけて頂き、現役の時の勤務先を聴かれ、外資系の「NCR」ですと答えました。「なら英語は得意だろうから、この葵で一緒にやらないか？」と誘われました。「お役に立てるのなら光栄です」と快諾し「英語で歌も」と申され「喜んで」とこたえましたら、傍らに居られた、今思えばスタッフの黒田さんが「カントリーロード」のメロディをハミングしておられた事を懐かしく思い出します。その時に頂いた英会話や歌詞のプリントを今手許に持っておりますが、それから程なく島田さんが葵にお見えにならなくなり、英会話も英語の歌も沙汰止みとなって今日に至っております。島田さんの遺作となっています「私の戦争体験」（葵通信一四九号）を読むと、このまま放置しておけば島田さんからきっとお叱りを頂くのは心定と痛感し、ここで潔ぎよくボランティアスピリットに立ち帰り、出直すのが当たり前でスタッフの方々のヘルプを頂けたら、練り直し、再スタートさせるべきとの考えに至りました。お盆が過ぎましたが、故島田さんもきっと、この考えに賛成して下さると思います。何故なら葵に通所される皆様とスタッフの皆様にとって良い事だと思うからです。

尚今頭の中で考えている葵の英会話教室は東京でユニークなものと考えています。そう言う事から色々サポートをお願いします。

古今抄（長期利用者様の紹介）

桑原　仁一

（H27年6月5日から通所）

葵に入って六年たちますが、体の調子が良くなってきたので、毎朝歩いてコンビニまでコーヒーを買いに行ける様になりました。約7千歩です。足腰の痛みも取れました、これからも葵での運動をがんばりたいです。

横山　シヅヨ

（H27年6月8日から通所）

葵に来る様になって人と接する事が増えて話す事も増えて楽しく通っています。食事もおいしく頂けてありがたいです。なるべく病気をしないで通いたいと思っています。

伊東　セツ

（H27年9月4日から通所）

早いもので葵さんにお世話になり九月で四年になります。スタッフの皆様のやさしい心づかい、又運動の為のマシン等、体を動かすことが出来るのでとても楽しみです。パソコンやお習字など、こんな年を重ねてから習えるなんてとても有難くおもっています。

濱野　數枝

（H27年6月17日から通所）

葵に通い始めて四年目になります。葵に来る日を楽しみにしています。家にいると一人の事が多いので元気にがんばって来たいと思います。これからも心と体を元気に、いつまでも通えるように願っています。三ヶ月毎の体力測定も楽しみです。